

昭和大学医学部整形外科学講座 専門研修プログラム

目次

1. 昭和大学整形外科専門研修プログラムについて
2. 昭和大学整形外科専門研修の特徴
3. 昭和大学整形外科専門研修目標
4. 昭和大学整形外科専門研修の方法
5. 専門研修の評価について
6. 研修プログラムの施設群について
7. 専攻医受入数
8. 地域医療・地域連携への対応
9. サブスペシャリティ領域との連続性について
10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
11. 専門研修プログラムを支える体制
12. 専門研修実績記録システムマニュアル等について
13. 専門研修プログラムの評価と改善
14. 専攻医の採用と終了



1. 昭和大学整形外科専門研修プログラムについて

昭和大学整形外科では、専門医として社会に貢献する医師になろうとする一貫した至誠の理想を体得するならば、おのずから真剣となり努力せずにはいられない、自粛自制をもって『至誠一貫』の真の精神を日常の実践に生かす、という理念を元に医療にかかわっております。

あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術を習得できるように、幅広い基本的な臨床能力（臨床、教育、研究）を身に付けられるバランスのとれたプログラムを作成しています。

1. 臨床（豊かな人間性）

臨床は、最も重点をおいているところです。東京・神奈川の中核となるばかりでなく、全国でもトップレベルの整形外科センターとなるべく診療レベルの向上に努めております。

総勢 200 名を超える整形外科医局員が、東京・神奈川近郊の連携病院にて日夜診療にあたっております。救急外傷・骨折、脊椎損傷、小児外傷、スポーツ障害、靭帯損傷、変形性関節症、半月板損傷、軟骨障害、関節リウマチ、骨粗鬆症、骨壊死、部位別では、上肢手・肘疾患、肩関節疾患、脊椎疾患、股・膝関節疾患、など各領域の専門家が多数そろっております。

ベーシックな手術とこれらを基盤にした最新の技術や考え方を基に微小血管や血流動態、神経支配、さらにはバイオメカニクス、再生医療を考慮した先進医療を推進し今まで難治とされていた疾患も治療が可能になるように挑戦しています。

ii. 教育

教育に関しましては、医学部学生、大学院生はもとより専攻医に至るまで、我が国をリードする人材の育成に努めております。常に一人一人の患者の立場に立つて考えることのできる、ヒューマニティーあふれる医師の教育を基本に、日進月歩の医学の知識（Science）と技術（Art）を十分身につける医師を育成したいと考えています。

昭和大学は変革する医学教育のなかで近年の高等医学教育、殊に横断的学部連携教育、体系的チーム医療学習のパイオニアであり、全国や海外から毎年見学者が訪れる医学教育の拠点機関でもあります。本人の意思を十分尊重し、個々の医師が自らの能力を最大限発揮できる教育を心がけています。

iii. 研究（リサーチマインド）

現在我が国の医学は iPS 細胞による再生医学をはじめ急速に進歩していますが、未だ十分な診断と治療ができない疾患が多数存在することも事実です。それを克服するためには研究が必要であり、研究で得られた成果を新しい診断や治療法に応用するのが大学における先進医療です。次世代を支える若い医師の育成を目指し、研究テーマを設け、研究をしながら、臨床と実践を行っています。幸い本学には多くの優れた人材がそろっており、基礎的な研究から臨床をふまえたトランスレーショナルな研究が可能で、基礎的な研究としては、破骨細胞の分化誘導形成機序、RANKL を礎とした骨に関する再生医療や培養細胞の移植など整形外科疾患の中心的な問題について分子生物学や細胞生物学を駆使して最新の研究に取り組んでおります。

我々は、整形外科専門医の使命を以下に考えております。整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有することです。整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献するべきであると考えています。整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供できる努力を行うと考えています。

昭和大学整形外科専門研修プログラムにおいては、約130名の指導医が専攻医の教育・指導にあたりますが、専攻医自身も主体的に学ぶ姿勢をもつことが大切です。整形外科専門医は自己研鑽し自己の技量を高めると共に（プロフェッショナル・オートノミーといいます）、積極的に臨床研究等に関わり整形外科医療の向上に貢献することが必要となります。チーム医療の一員として行動し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くことによって周囲から信頼されることも重要です。本研修プログラムでの研修後に皆さんは運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供することで、将来の医療の発展に貢献できる整形外科専門医となることが期待されます。

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1か月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得、3年9か月で45単位を修得するプロセスで研修を行います。整形外科後期研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新患数が500例、年間手術症例が40例と定められております。基幹施設および連携施設全体において年間新患数12万名以上、年間手術件数30,000件以上と実に豊富な症例数を有する研修プログラムであり必要症例数をはるかに上回る症例を経験することが可能です。また学術的な経験として、学会発表（年1回以上）と論文執筆（研修期間中1編以上）を行うことによって、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。

当プログラムの大きな特徴としては、プログラム1年目から、専攻医の期間の間に整形外科臨床系大学院へ進学して研究を同時並行で進めることができることです。その場合は、専門医研修修了と同時に大学院を卒業可能です。基礎系大学院へ進学を希望する場合は、プログラム2年間修了後に、社会人大学院生として基礎系大学院へ進学できます。その後2年間の研修を継続することができます。研修プログラム終了後に、基礎系研究室にて更に2年間の基礎研究を行い大学院を卒業することができます。本研修プログラム2年修了後に、サブスペシャリティ領域の研修を開始する準備が整えられます。

2. 昭和大学整形外科学専門研修の特徴

昭和大学病院を基幹病院とした研修病院群で研修を行います。幅広い研修の選択肢と魅力ある病院群で、一人ひとりに合った研修が可能であることが特徴です。プログラム責任者と専攻医が個別面談を行い、本人の意思を尊重してプログラムにおける研修内容を組むことができます。それぞれの研修病院での研修期間は、研修終了時に習得すべき領域の単位をすべて修得していれば専攻医毎に自由に設定することが可能です。整形外科専攻医として研修プログラムを修了後に整形外科専門医を取得できます。基幹施設である昭和大学病院における研修では、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修に加えて、大学院大学の側面を活かし、臨床研究および、基礎研究への深い関わりを持つことができます。

研修プログラム終了後の進路としては、サブスペシャリティ領域の研修に進むことができます。本研修プログラムでは全ての領域のサブスペシャリティを取得することができます。国内留学、海外留学を選択することもできます。また、小児や腫瘍などの特に特殊な分野への専攻を希望する場合は、昭和大学と関係の深い高度医療センターへ研修に出ることができます。進みたい領域の専門診療班に所属し、昭和大学整形外科、昭和大学藤が丘整形外科ならびに連携施設において専門領域の研修を行います。いずれのコースにおいても研修終了翌年度から行うためには、専攻研修4年目の6月の時点で、後述する修了認定基準を満たす見込みが得られていることが必要です。

当プログラムには特徴がもう一つあります。それは、800床を超える大学附属病院が東京に2つ、横浜に2つあることです。この起点病院を中心として、研修先を東京コースと横浜コースから選択することができます。生活の拠点を確保しやすく、都市部の住居からも通勤が可能です。

① 昭和大学医学部整形外科学講座

当講座は、1928(昭和3)年4月に上條秀介医学博士らにより開校された昭和医学専門学校設立とほぼ同時に、同年5月15日に昭和医学専門学校整形外科学講座として開講されました。日本で9番目の整形外科学講座という非常に長い歴史を持ちます。2018(平成30)年に開講90周年をむかえ、全国に約600名(藤が丘整形外科を含めると800名を超えます)の同門を数えるに至る全国でも有数の整形外科学教室です。

横浜コースの起点となる昭和大学藤が丘病院は昭和50年に開院し、同時に整形外科も開設されました。神奈川県を中心とした連携施設において非常に多くの症例の診療にあたり、神奈川の運動器臨床を支えてきました。2015年に40周年を迎え、神奈川県横浜地域を基盤として発展し、こちらでも200名以上の同門数を数えます。

② 専門研修連携施設

本専門研修プログラムでは4附属大学病院に準ずる起点病院として、虎の門病院、国立がんセンター中央病院、横浜労災病院、都立広尾病院、日本赤十字社医療センター、日本鋼管病院、東京都保健医療公社荏原病院、国家公務員共済組合東京共済病院、三宿病院、東京高輪病院、関東労災病院、独立行政法人相模野病院、横浜南共済病院など地域医療の拠点となっている施設(地域中核病院)として太田西ノ内病院、

今給黎総合病院、聖隷沼津病院、山梨赤十字病院、菊名記念病院といった幅広い連携施設が教育研修の場として提供されています。例えば、スポーツ医学を早くから研修を希望するなどの場合は、日本鋼管病院では年間 1500 件のスポーツ外傷の手術を主として行っており研修が可能です。

昭和大学藤が丘病院では毎年 1400 件以上の手術を行っており、股関節手術が約 240 件、膝関節手術が約 300 件、肩関節肘関節を含めた上肢手術が約 290 件、脊椎手術が約 250 件、外傷手術が約 400 件と非常に多くの症例をこなしています。股関節では難病に指定されている大腿骨頭壊死症の治療においては第一線をリードする存在であり、肩関節、膝関節においては変性疾患のみならずスポーツ選手も多く診療しプロスポーツ選手からアマチュア選手まで幅広く診療しており定評を得ています。脊椎外科においても若年の特発性側弯症から難易度の高い高度な成人脊柱変形等の手術も数多く行っています。藤が丘病院の救命センター、ERには多くの外傷患者が搬送され救急医学科と連携しつつ高度な外傷手術にも取り組んでいます。

③ 研修コースの具体例

本専門研修コースの具体例として下表のごとく、昭和大学病院整形外科の専門研修施設群の各施設の特徴（脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、外傷、腫瘍）に基づいたコースの例を示しています。各専門研修コースは、各専攻医の希望を考慮し、個々のプログラムの内容や基幹施設・連携施設のいずれの施設からの開始に対しても対応できるような研修コースを作成しています。流動単位の 5 単位については、必須単位取得後にさらなる経験が必要と考えられる分野や、将来希望するサブスペシャリティ分野を重点的に研修することが可能です。

研修先については、基幹病院や研修施設連携病院、関連施設などの群から、専攻医一人一人と毎年相談して、本人の研修希望にそう事が出来るようにローテーションを変更することができます。

<プログラムの研修単位取得 参考一例>

1 年：昭和大病院	リウマチ 3	上肢・手 6	腫瘍 1	小児 2
2 年：虎の門病院	下肢 6	脊椎 3	スポーツ 3	
3 年：広尾病院	外傷 6	腫瘍 1	脊椎 3	流動 2
4 年：ひたち医療	地域 3			
→江東豊洲病院		リハビリ 3	流動単位 3	

7 月専門医資格申請
1 月専門医認定試験

基幹施設（昭和大学病院）週間予定

	月	火	水	木	金
朝	英文抄読会 外来・術後 症例検討会	外来・術後 症例検討会	手外科症例 検討会 外来・術後 症例検討会	外来・術後 症例検討会	外来・術後 症例検討会
午前	一般外来 脊椎手術 股関節手術	一般外来 関節鏡手術	一般外来 リウマチ外 来 手外科手術 股・膝関節手 術	一般外来 教授回診 関節手術 脊椎手術	一般外来 スポーツ手 術
午後	股関節専門 診	外傷手術 上肢、肩肘專 門診 骨粗鬆症專 門診	脊椎専門診 末梢神経專 門診	手外科専門 診 症例検討会	スポーツ診 膝専門診

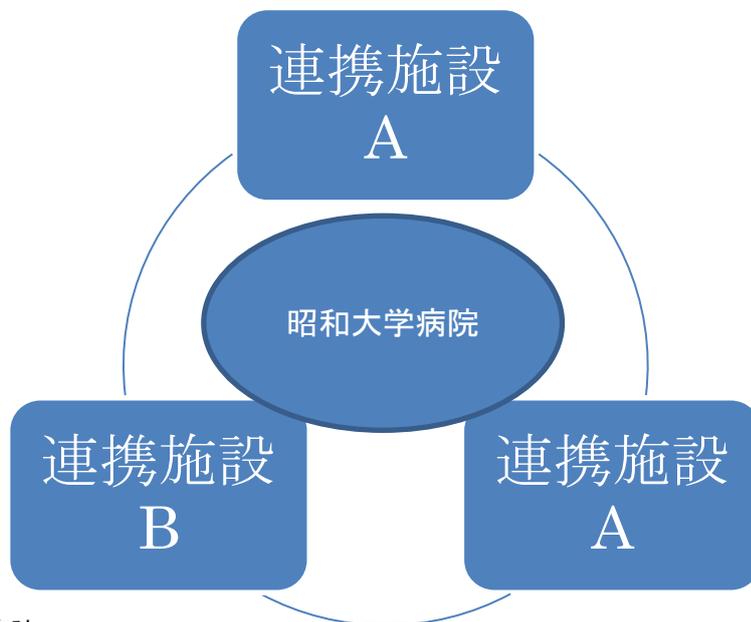
診療班	月	火	水	木	金
脊椎	難治性脊椎 手術 脊椎手術	脊髄造影、 神経ブロッ ク	脊椎専門診 脊椎カンフ ァレンス	症例検討会	
膝、スポー ツ	外来	手術 手術			手術 スポーツ專 門診
股関節	手術 股関節専門 外来 股関節回診		手術 手術	手術	
上肢/手	外来手術		手外科カン ァレンス 手術	手外科専門 外来	
骨粗鬆症、 リウマチ			特殊外来		

専門医取得までの研修

< 東京コース >

連携施設 B

- 三宿病院
- JCHO 相模野病院
- 山梨赤十字病院
- 聖隷沼津病院
- 菊名記念病院
- 高津中央病院
- 東京明日佳病院
- 御代田中央記念病院
- 国立がん研究センター
- 城山病院
- ひたち医療センター
- 熊本機能病院
- 北部地区医師会病院



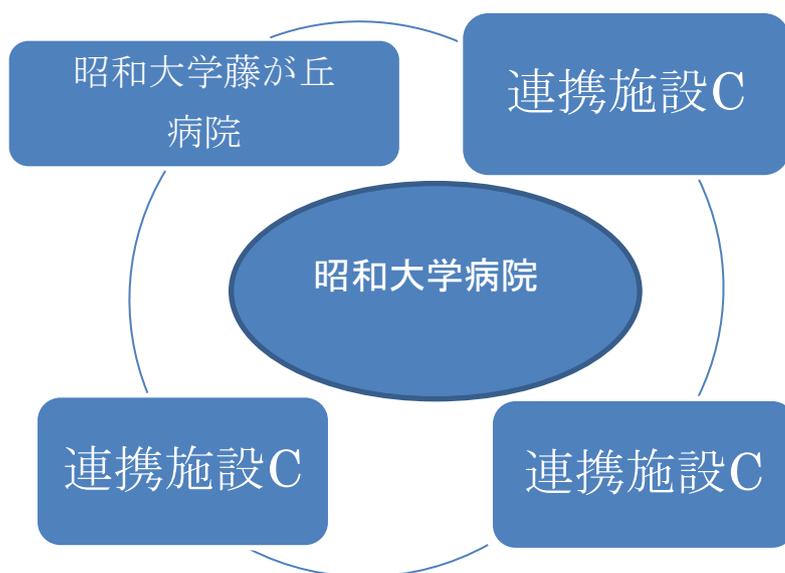
連携施設 A

- 虎の門病院
- 横浜労災病院
- 都立広尾病院
- 日赤医療センター
- 日本鋼管病院
- 太田西ノ内病院
- 荏原病院
- 東京共済病院
- 東京高輪病院
- 今給黎総合病院
- 関東労災病院
- 昭和大学横浜市北部病院
- 昭和大学江東豊洲病院

< 横浜コース >

連携施設 C

- 昭和大学横浜市北部病院
- 昭和大学江東豊洲病院
- JCHO 相模野病院
- 山梨赤十字病院
- 横浜旭中央病院
- 新座志木中央総合病院
- 横浜新都市脳神経外科病院
- 東戸塚記念病院
- 麻生総合病院
- 戸塚共立第一病院
- 戸塚共立リハビリテーション病院
- たちばな台病院
- 佐々病院
- 横浜南共済病院
- ひたち医療センター
- 静岡医療センター



研修コース（研修施設のローテーション例）

東京コース

	研修順序	1	2	3	4	5
専攻医 1	研修病院	昭和大学 病院	虎の門病院	都立広尾 病院	ひたち医療 センター	昭和大学江東 豊洲病院
	期間	12 か月	12 か月	12 か月	3 か月	6 か月
	取得単位	リウマチ 3 上肢・手 6 小児 2 腫瘍 1	下肢 6 脊椎 3 スポーツ 3	脊椎 3 外傷 6 腫瘍 1, 流動 2	地域 3	リハビリ 3 流動 3
専攻医 2	研修病院	昭和大学 病院	東京高輪 病院	日本鋼管 病院	昭和大学横 浜市北部病 院	ひたち医療セ ンター
	期間	12 か月	12 か月	12 か月	6 か月	3 か月
	取得単位	リウマチ 3 上肢・手 6 小児 2 腫瘍 1	下肢 6 脊椎 3 スポーツ 3	脊椎 3 外傷 6 腫瘍 1, 流動 2	リハビリ 3 流動 3	地域 3
専攻医 3	研修病院	昭和大学 病院	横浜労災 病院	太田西ノ内 病院	昭和大学 病院	
	期間	12 か月	12 か月	12 か月	9 か月	
	取得単位	リウマチ 3 上肢・手 6 小児 2 腫瘍 1	下肢 6 脊椎 3 スポーツ 3	地域 3 外傷 6 リハビリ 3	脊椎 3 腫瘍 1 流動 5	
専攻医 4	研修病院	昭和大学 病院	荏原病院	聖隷沼津 病院	昭和大学 病院	
	期間	12 か月	12 か月	12 か月	9 か月	
	取得単位	リウマチ 3 上肢・手 6 小児 2 腫瘍 1	下肢 6 脊椎 3 スポーツ 3	地域 3 外傷 6 リハビリ 3	脊椎 3 腫瘍 1、 流動 5	
専攻医 5	研修病院	昭和大学 病院	日本鋼管 病院	三宿病院	昭和大学 病院	御代田病院
	期間	12 か月	12 か月	12 か月	6 か月	3 か月
	取得単位	リウマチ 3 上肢・手 6 小児 2 腫瘍 1	下肢 6 脊椎 3 スポーツ 3	流動 3 外傷 6 リハビリ 3	脊椎 3 腫瘍 1 流動 2	地域 3

専攻医 6	研修病院	昭和大学 病院	菊名記念 病院	ひたち医療 センター	昭和大学江 東豊洲病院	山梨赤十字 病院
	期間	6 か月	12 か月	6 か月	12 か月	9 か月
	取得単位	上肢・手 6	下肢 6 脊椎 3 スポーツ 3	地域 3 外傷 3	脊椎 3 小児 2 腫瘍 2、 流動 5	リウマチ 3 外傷 3 リハビリ 3
専攻医 7	研修病院	昭和大学 病院	今給黎総合 病院	高津中央 病院	昭和大学横 浜市北部病 院	日本鋼管病院
	期間	6 か月	12 か月	6 か月	12 か月	9 か月
	取得単位	上肢・手 6	下肢 6 脊椎 3 地域 3	流動 3 外傷 3	脊椎 3 小児 2 腫瘍 2、 流動 5	リウマチ 3 外傷 3 リハビリ 3
専攻医 8	研修病院	昭和大学 病院	山梨赤十字 病院	丸子中央 病院	日赤医療セ ンター	昭和大学病院
	期間	6 か月	12 か月	6 か月	12 か月	9 か月
	取得単位	上肢・手 6	下肢 6 脊椎 3 スポーツ 3	地域 3 外傷 3	脊椎 3 小児 2 腫瘍 2、 流動 5	リウマチ 3 外傷 3 リハビリ 3
専攻医 9	研修病院	昭和大学 病院	三宿病院	ひたち医療 センター	太田西ノ内 病院	
	期間	12 か月	12 か月	12 か月	9 か月	
	取得単位	リウマチ 3 上肢・手 6 小児 2 腫瘍 1	下肢 6 脊椎 3 スポーツ 3	地域 3 外傷 6 リハビリ 3	脊椎 3 骨軟部 1 流動 5	
専攻医 10	研修病院	昭和大学 病院	横浜市北部 病院	太田西ノ内 病院	今給黎総合 病院	
	期間	6 か月	12 か月	18 か月	9 か月	
	取得単位	上肢・手 4 腫瘍 2	下肢 6 脊椎 3 スポーツ 3	地域 3 外傷 6 リウマチ 3 小児 2 リハ 3 流動 1	脊椎 3 上肢 2 流動 4	

横浜コース

専攻医 11	研修病院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学病院	横浜旭 中央病 院	東戸塚 記念病 院	山梨赤 十字病 院	昭和大 学藤が 丘病院	戸塚共 立第一 病院	昭和大 学江東 豊洲病 院
	期間	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	3か月
	取得単 位	小児2 脊椎3 流動1	腫瘍2 上肢手3 流動1	リウマ チ3 脊椎3	外傷3 流動3	地域3 外傷3	スポー ツ3 リハビ リ3	下肢3 流動3	上肢手 3
専攻医 12	研修病院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学病院	東戸塚 記念病 院	横浜旭 中央病 院	昭和大 学藤が 丘病院	山梨赤 十字病 院	昭和大 学江東 豊洲病 院	戸塚共 立第一 病院
	期間	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	3か月
	取得単 位	小児2 脊椎3 流動1	腫瘍2 上肢手3 流動1	脊椎3 下肢3	リウマ チ3 脊椎3	スポー ツ3 リハビ リ3	地域3 外傷3	下肢3 流動3	外傷3
専攻医 13	研修病院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学病院	新座志 木中央 総合病 院	横浜新 都市脳 神経外 科病院	昭和大 学横浜 市北部 病院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学江東 豊洲病 院	麻生総 合病院
	期間	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	3か月
	取得単 位	小児2 下肢3 流動1	腫瘍2 外傷3 流動1	地域3 リウマ チ3	下肢3 流動3	スポー ツ3 上肢手 3	リハビ リ3 脊椎3	上肢手 3 流動3	脊椎3
専攻医 14	研修病院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学病院	横浜新 都市脳 神経外 科病院	新座志 木中央 総合病 院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学横浜 市北部 病院	麻生総 合病院	昭和大 学江東 豊洲病 院
	期間	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	3か月
	取得単 位	腫瘍2 外傷3 流動1	小児2 脊椎3 流動1	外傷3 下肢3	地域3 リウマ チ3	リハビ リ3 上肢手 3	スポー ツ3 下肢3	脊椎3 流動3	上肢手 3

専攻医 15	研修病院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学病院	昭和大 学横浜 市北部 病院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学藤が 丘病院	横浜旭 中央病 院	横浜南 共済病 院	山梨赤 十字病 院
	期間 取得単 位	6 か月 腫瘍 2 脊椎 3 流動 1	6 か月 小児 2 上肢手 3 流動 1	6 か月 リウマ チ 3 下肢 3	6 か月 リハビ リ 3 下肢 3	6 か月 上肢手 3 外傷 3	6 か月 脊椎 3 外傷 3	6 か月 スポー ツ 3 流動 3	3 か月 地域 3
専攻医 16	研修病院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学病院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学横浜 市北部 病院	横浜旭 中央病 院	昭和大 学江東 豊洲病 院	山梨赤 十字病 院	横浜南 共済病 院
	期間 取得単 位	6 か月 腫瘍 2 上肢手 3 流動 1	6 か月 小児 2 下肢 3 流動 1	6 か月 リハビ リ 3 脊椎 3	6 か月 リウマ チ 3 下肢 3	6 か月 脊椎 3 流動 3	6 か月 上肢手 3 外傷 3	6 か月 地域 3 流動 3	3 か月 スポー ツ 3
専攻医 17	研修病院	昭和大 学藤が 丘病院	昭和大 学病院	昭和大 学江東 豊洲病 院	山梨赤 十字病 院	東戸塚 記念病 院	新座志 木中央 総合病 院	昭和大 学横浜 市北部 病院	昭和大 学藤が 丘病院
	期間 取得単 位	6 か月 小児 2 下肢 3 流動 1	6 か月 腫瘍 2 脊椎 3 流動 1	6 か月 上肢手 3 脊椎 3	6 か月 地域 3 流動 3	6 か月 脊椎 3 下肢 3	6 か月 リウマ チ 3 流動 3	6 か月 上肢手 3 外傷 3	3 か月 スポー ツ

3. 昭和大学医学部整形外科専門研修の目標

整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術を習得できるように、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身に付けます。

そのために下記の一般教育目標（General Instructional Object: GIO）を定めます。

1. 医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できる。
2. 運動器疾患の理解に必要な運動器の解剖学および病態・生理学を習得する。
3. 運動器疾患の正確な診断を行うための基本的手技を習得する。
4. 運動器疾患の治療を安全に行うための基本的手技を習得する。
5. 重要な運動器疾患について理解・習得する。
6. 小児運動器疾患の診断・治療・予後を理解・習得する。
7. 運動器のスポーツ外傷・障害（傷害）について基本的知識を習得する。
8. 運動器の機能障害を正確に評価し、運動器リハビリテーションを適切に処方する。
9. 地域にて医療を行うための必要な知識を習得する。
10. 運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を習得する。
11. 医療記録は開示義務に基づき必要事項が正確に記録されねばならないこと、そして、医療記録は個人情報であり、社会的にその管理責任を果たさねばならないことを理解・習得する。
12. 臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を習得する。

① 専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナルリズム）
- 3) 診療記録の適確な記載ができること
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得する
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行いながら自らが学習すること

② 到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）

1) 専門知識

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養します。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得します。

具体的な年度毎の達成目標は、日本整形外科学会の提示する専門研修プログラム整備基準資料1：専門知識習得の年次毎の到達目標及び資料2：専門技能習得の年次毎の到達目標に準じます。整形外科の研修で修得すべき知識・技能・態度は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性を対象とし、専門分野も解剖学的部位別に加え、腫瘍、リウマチ、スポーツ、リハビリ等多岐に渡ります。この様に幅広い研修内容を修練するにあたっては、別添した研修方略（資料6）に従って1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月で45単位を修得する修練プロセスで研修します。研修コースの具体例は上に別表2に示した通りです。

研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。

- ・ 専門研修1年目では基本的診療能力および整形外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、日本整形外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- ・ 専門研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、整形外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会研究会への参加などを通して専門知識技能の習得を図ります。
- ・ 専門研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、他の研修医の指導計画にも参画し、リーダーシップを発揮して、実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。
- ・ 専門研修4年目では、これまでの知識経験の集大成として、一整形外科医として日常の診療及び研究に関わる事が出来るように、これまでの自己評価を行うとともに将来的な専門性の獲得も検討していきます。

2) 専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能（診察、検査、

診断、処置、手術など)を身につけます。専門技能習得の年次毎の到達目標を別添する日本整形外科学会の提示する専門研修プログラム整備基準資料2に示します。

3) 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得することができることを一般目標とし、以下の行動目標を定めています。

- i. 経験症例から研究テーマを立案しプロトコールを作成できる。
- ii. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- iii. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
- iv. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
- v. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
- vi. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

さらに、本研修プログラムでは学術活動として、下記2項目を定めています。

学会での発表(年1回以上)と論文作成(研修期間中1編以上)。

4) 医師としての倫理性、社会性など

- i. 医師としての責務を 自律的に果たし信頼されること(プロフェッショナルリズム)

医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。本専門研修プログラムでは、指導医とともに患者同家族への診断・治療に関する説明に参加し、実際の治療過程においては受け持ち医として直接患者・家族と接していく中で医師としての倫理性や社会性を理解し身につけます。

- ii. 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

整形外科専門医として、患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を実践できること、医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応がマニュアルに沿って実践できることが必要です。本専門研修プログラムでは、専門研修(基幹および連携)施設で、義務付けられる職員研修(医療安全、感染、情報管理、保険診療など)への参加を必須とします。また、インシデント、アクシデントレポートの意義、重要性を理解し、これを積極的に活用することを学びます。インシデントなどが診療において生じた場合には、指導医とともに報告と速やかな対応を行い、その経験と反省を施設全体で共有し、安全な医療を提供していくことが求められます。

医師の法的義務と職業倫理

「医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守する」ために、以下の項目を満たす努力を行う様指導します。

1. 医師法等で定められた医師の義務を知っている。
2. 医療法の概略、特に療養担当規則を理解している。
3. 医療行為に関する上記以外の法律(健康保険法・薬事法など)を十分に理解し、遵守できる。
4. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる。
5. DOH (Declaration of Helsinki)、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知っている。
6. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる。
とする。また、患者およびその家族と良好な信頼関係を築くことができるようコミュニケーション能力と協調による連携能力を身につける。さらに、医療職スタッフとのコミュニケーション能力を身につけ、関連する医療従事者と協調・協力してチーム医療を実践することができる。

iii. 臨床の現場から学ぶ態度を修得すること

臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。本専門研修プログラムでは、知識を単に暗記するのではなく、「患者から学ぶ」を実践し、個々の症例に対して、診断・治療の計画を立てて診療していく中で指導医とともに考え、調べながら学ぶプログラムとなっています。また、毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは個々の症例から幅広い知識を得たり共有したりすることからより深く学ぶことが出来ます。

iv. チーム医療の一員として行動すること

整形外科専門医として、チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動できること、的確なコンサルテーションができること 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたることができることが求められます。本専門研修プログラムでは、指導医とともに個々の症例に対して、他のメディカルスタッフと議論・協調しながら、診断・治療の計画を立てて診療していく中でチーム医療の一員として参加し学ぶことができます。また、毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは指導医とともにチーム医療の一員として 症例の提示や問題点などを議論していきます。

v. 後輩医師に教育・指導を行うこと

自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように、学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち

患者を担当してもらい、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導も担ってもらいます。本専門研修プログラムでは 基幹施設においては指導医と共に学生実習の指導の一端を担うことで、教えることが 自分自身の知識の整理につながることを理解していきます。

また、連携施設においては、後輩医師、他のメディカルスタッフとチーム医療の一員として、互いに学びあうことから、自分自身の知識の整理、形成的指導を実践していきます。

領域別研修カリキュラム

研修領域	修得すべき専門知識・技能・理念
診療技能	<p>整形外科の患者に適切に対応し、特に身体的な予後にかかわる疾患や治療可能な疾患を見逃さないために各症候を理解し情報収集と身体診察を通じて病態を推測するとともに、疾患の出現頻度と重症度に応じた的確に診断し、患者・家族の心理過程や苦痛、生活への影響に配慮する能力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平易な言葉で患者や家族とコミュニケーションをとる。 2. 症候をめぐる患者と家族の解釈モデルと期待を把握し、適切に対応する。 3. 目と耳と手とを駆使し、診察用具を適切に使用して、基本的な診察を行う。 4. 対診・紹介を通して、医療者間の人間関係を確立する。 5. 地域の医療資源を活用する。 6. 診療録に利用価値の高い診療情報を記載する。 7. 対症療法を適切に実施する。 8. 臨床検査の基本を理解し、適切に選択・実施する。
脊椎	<p>頭頸椎外科、胸腰椎外科、側弯症外科、小児脊椎外科、最小侵襲脊椎外科など多岐にわたる分野を理解し、内科的知識、特に神経内科に準ずる知識と外科の技術、通常の技術から内視鏡の技術を身につける。</p>
上肢・手	<p>肩関節の機能解剖を熟知して、診断を治療の技術を高め、関節鏡を含めた技術を習得する。肘から指尖まで幅広く手外科症例を経験し、マイクロサージャリー、皮弁を用いた皮膚軟部組織の再建、先天異常まで研修する。</p>
下肢	<p>下肢疾患を外傷や変性疾患に分けることなく広く診断治療する知識と技能を身につけた上で、サブグループ（股関節外科、膝関節外科、足関節外科、足の外科および外傷、変性疾患、リウマチ、小児整形疾患、スポーツ疾患）などについて経験する。</p>

研修領域	修得すべき専門知識・技能・理念
外傷	外傷初期診療法の習得と外傷患者管理法を習得する。四肢骨折における、基本的骨接合法を実地で習得する。多発外傷患者の機能再建、難しい関節内骨折骨接合法を習得する。また血管吻合法を習得する。脊椎外傷についても治療法を学ぶ。創外固定による骨延長・変形矯正の必要性について学ぶ。骨盤寛骨臼骨折骨接合法のスキルを学ぶ。
リウマチ	主な膠原病・リウマチ性疾患についての診断基準に基づいた診断、標準的治療とその効果判定を行うために、系統的な身体診察、検査の選択、結果の解釈を身につける。リウマチ専門医との連携や、皮膚科、眼科、リハビリテーション科など多専門職種とのチーム医療を行う。
スポーツ	膝、足関節、肩や肘の関節鏡手術やリハビリテーションをスポーツドクターのもので実地医療の経験をする。スポーツリハビリテーションも積極的に行い、スポーツの現場復帰を目指している者への支援を実践できるようになる。
リハビリ	整形外科だけでなく全ての診療科の医師に必要なプライマリ・ケアとしてのリハ医療の意義と役割を理解し、さらにリハビリに対する専門的な知識、技能、態度および理念 (rehabilitation mind) を習得する。
地域医療	地域の一次・二次医療、健康増進、予防医療、介護支援などを総合的に担い、地域の各種社会資源・人的資源と連携し、全人的・継続的に診て、疾病の診療や健康の支援者としての役割を果たす能力を修得する。
小児	小児の運動器に関して、骨折などの外傷から先天性疾患、後天性疾患に至るまでの幅広い分野において、適切に診断・治療が行えるように修練するとともに、診断・治療が困難な罹患児に遭遇しても、論理的に診察・検査を進めて正しい診断・治療法の選択に至るように研鑽を積む。
腫瘍	悪性腫瘍の一般的特性、頻度の高い良性腫瘍を知り、初期診断法と治療の原則を理解するとともに、画像検索に頼らない集学的治療の重要性を認識して、腫瘍性疾患の診断と治療を行う能力を修得する。
救急	救急疾患の特性を熟知し、バイタルサインを把握して年齢と重症度に応じた適切な救命・救急処置およびトリアージを行い、高次医療施設に転送すべきか否かとその時期を判断する能力を修得する。

③ 経験目標（種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法等）

1) 経験すべき疾患・病態

本専門研修プログラムでは、都市型総合研修病院として年1000例以上の手術件数を取り扱う大型総合病院である昭和大学病院を中心として、大学附属病院が4施設あります。（昭和大学藤が丘病院、昭和大学横浜市北部病院、昭和大学江東豊洲病院）都市型総合病院、地域の中核病院と非常に多くの症例を有する総合病院で研修が可能です。

2) 経験すべき診察・検査等

日本整形外科学会の提示する専門研修プログラム整備基準（資料3：整形外科学研修カリキュラム）に明示した経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は、日本整形外科学会の提示する専門研修プログラム整備基準（資料2：専門技能習得の年次毎の到達目標）に準じます。Ⅲ診断基本手技、Ⅳ治療基本手技については4年間で5例以上経験します。（日本整形外科学会ホームページ参照）

3) 経験すべき手術・処置等

日本整形外科学会の提示する専門研修プログラム整備基準（資料3：整形外科専門研修カリキュラム）に明示された一般目標及び行動目標に沿って研修します。経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修します。

本専門研修プログラムの基幹施設である昭和大学病院では、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。症例を十分に経験した上で、上述したそれぞれの連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能を広くより専門的に学ぶことができます。（日本整形外科学会ホームページ参照）

4) 地域医療の経験（病診・病院連携、地域包括ケア、在宅医療など）

日本整形外科学会の提示する専門研修プログラム整備基準（資料3：整形外科専門研修カリキュラム）の中にある地域の項目に沿って周辺の医療施設との病院・病診連携の実際を経験します。

東京・神奈川中心部以外の地域医療研修病院において3か月（3単位）以上勤務します。本専門研修プログラムの連携施設には、その地域において地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院）が多く含まれます。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病院連携のあり方について理解し実践できます。在宅医療やケア専門施設などを活用した医療についても経験することができます。（日本整形外科学会ホームページ参照）

以下を本研修プログラムにおける地域医療の目標とします。

1. 大病院での診療だけでなく、日常診療で遭遇する頻度の高い疾患に対応できる医師を養成する。
2. 「地域保健・医療」分野を研修することにより、今後はへき地・離島医療への理解が深まり、へき地へ赴くことへの意識を向上する。
2. 全ての単独型、管理型病院である大規模病院が「地域保健・医療」分野の研修体制を確保し、へき地医療機関との連携がより強化する。

5) 学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得します。また、臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導きだし、論理的に正しくまとめる能力を修得するため、年 1 回以上の学会発表、筆頭著者として研修期間中 1 編以上の論文を作成します。

昭和大学整形外科が主催する整形外科卒後研修セミナーに参加することにより、専門領域のエキスパートからの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

4. 昭和大学整形外科専門研修の方法

① 臨床現場での学修

研修内容を修練するにあたっては、1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制を取り、全カリキュラムを 10 の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 か月で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。

本研修プログラムにおいては手術手技を 600 例以上経験し、そのうち術者としては 300 例以上を経験することができます。尚、術者として経験すべき症例については、日本整形外科学会の提示する専門研修プログラム整備基準（資料 3：整形外科専門研修カリキュラム）に示した（A：それぞれについて最低 5 例以上経験すべき疾患、B それぞれについて最低 1 例以上経験すべき疾患）疾患の中のものとします。術前術後カンファレンスにおいて手術報告をすることで、手技および手術の方法や注意点を深く理解し、整形外科的専門技能の習得を行います。

指導医は上記の事柄について、責任を持って指導します。

② 臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演（医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む）に参加します。また関

連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、圏内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。特に本研修プログラムでは、昭和大学整形外科同門会が主催する整形外科卒後研修セミナーに参加することにより、専門領域のエキスパートからの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。他科にわたる疾患では、コンバインドミーティングや研究会を他科と合同で主催して、参加をできる環境を整えています。

③ 自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成する e-Learning や Teaching file などを活用して、より広く、より深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用 DVD 等を利用することにより、診断・検査・治療等についての教育を受けることもできます。研修基幹病院では、医学中央雑誌、PubMed への学内専用アクセスライセンスを与え、多くの情報に触れる機会があります。

④ 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得することを目標とします。その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。

5. 専門研修の評価について

① 形成的評価

1) フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表（資料 7）の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表（資料 8）で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表（資料 7）の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。尚、これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムから web で入力します。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。（日本整形外科学会ホームページ参照）

2) 指導医層のフィードバック法の学習 (FD)

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案（研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成）、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

②総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門専攻研修4年目の3月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを習得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

修了認定基準は、以下のすべての項目を満たしていることとします。

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること（日本整形外科学会の提示する専門研修プログラム整備基準：専攻医獲得単位報告書（資料9）を提出）。
- ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
- v. 1回以上の学会発表、筆頭著者として1編以上の論文があること。

（日本整形外科学会ホームページ参照）

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種（看護師、技師等）の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い日本整形外科学会の提示する専門研修プログラム整備基準（専攻医評価表：資料10）に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

（日本整形外科学会ホームページ参照）

6. 研修プログラムの施設群について

専門研修基幹施設：

昭和大学整形外科が専門研修基幹施設となります。

専門研修連携施設：

昭和大学整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。専門研修連携施設の認定基準を満たしています。

1：専門研修基幹施設名

昭和大学病院

2：専門医研修連携施設名

昭和大学藤が丘病院	昭和大学江東豊洲病院	昭和大学横浜市北部病院
医療法人社団こうかん会 日本鋼管病院	一般財団法人 太田西ノ内病院	公益財団法人東京都保健 医療公社 荏原病院
国家公務員共済組合連合会 東京共済病院	地域医療機能推進機構東京高 輪病院	公益財団法人昭和会 今 給黎総合病院
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	独立行政法人労働者福祉機構 関東労災病院	東京都立広尾病院
日本赤十字社医療センター	独立行政法人労働者福祉機構 横浜労災病院	日本赤十字社 山梨赤十字病院
医療法人 五星会 菊名記念病院	地域医療機能推進機構 相模 野病院	医療法人社団 御代田中央 記念病院
一般財団法人 芙蓉協会 聖隷 沼津病院	国家公務員共済組合連合会 三宿病院	社会医療法人愛宣会 ひ たち医療センター
丸子中央病院	医療法人社団 亮正会総合高 津中央病院	特定医療法人社団 東京 明日佳病院
国立研究開発法人 国立がん 研究センター 中央病院	医療法人社団 明芳会 横浜旭 中央総合病院	新座志木中央総合病院
医療法人社団 明芳会横浜新 都市脳神経外科病院	国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院	医療法人財団 明理会 東 戸塚記念病院
医療法人社団 総生会 麻生 総合病院	医療法人横浜柏堤会 戸塚共 立第一病院	医療法人社団時正会 佐々総合病院
医療法人横浜柏堤会 戸塚共 立リハビリテーション病院	医療法人社団 一成会 たち ばな台病院	医療法人 慈慧会 亀川 病院
独立行政法人労働者福祉機構 静岡医療センター	公益社団法人 北部地区医師会病院	

3：その他の関連施設名

昭和大学整形外科研修プログラムの専門研修施設群は東京都内および近隣の神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県および長野県にあります。施設群の中には、地域中核病院が含まれています。

7. 専攻医受入数

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限（4学年分）は、当該年度の指導医数×3となっています。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。またプログラム参加施設の合計の症例数で専攻医の数が規定され、プログラム全体での症例の合計数は、（年間新患数が500例、年間手術症例を40例）×専攻医数とされています。

この基準に基づき、専門研修基幹施設である昭和大学病院整形外科と専門研修連携施設全体の指導医数は約130名、年間新患数約130,000名、年間手術件数およそ約30,000件と十分な指導医数・症例数を有しますが、質量ともに十分な指導を提供するために1年17名、4年で70名を受人数とします。

8. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度は、地域の整形外科医療を守ることを念頭に置いています。地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また地域医療研修病院における周囲医療機関との病院連携、病診連携を経験・習得します。本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である昭和大学病院が存在する、東京および神奈川中心部以外の地域医療研修病院に3か月（3単位）以上勤務することによりこれを行います。

他県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。本プログラムとは別の地域における整形外科診療や病院連携、病診連携を経験することを目的に、他県での研修を行います。

地域において指導の質を落とさないための方法として、地域医療研修病院の指導医には日本整形外科学会が主催する研修会への参加を義務付け、各領域の専門家による最新知識に関する講義を受けると同時に、自らが指導する専攻医の集談会あるいは学会への参加を必須としています。また研修関連施設の指導医は、研修プログラム管理委員会に参加するとともに、自らが指導した専攻医の評価報告を行います。同時に、専攻医から研修プログラム管理委員会に提出された指導医評価表に基づいたフィードバックを受けることとなります。

9. サブスペシャリティ領域との連続性について

昭和大学整形外科研修プログラムでは各指導医が脊椎・脊髄外科、関節外科、スポーツ整形外科、外傷、手外科等のサブスペシャリティを有しています。専攻医が興味を有し将来指向する各サブスペシャリティ領域については、指導医のサポートのもとにより深い研修を受けることができます。なお、専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加は強く推奨されます。

10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6か月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない場合、大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6か月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

11. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である昭和大学病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。

② 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によります。

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 4) 施設の給与体系を明示し、4年間の研修で専攻医間に大きな差が出ないように配慮します。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行います。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は昭和大学病院整形外科専門研修管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

③ 専門研修指導医の研修計画

研修指導者は、研修の質を維持するために研修の指導にあたる指導医の指導能力の維持・向上に責任を持ちます。指導医は、指導能力を維持・向上させるための計画的な自己学習を継続しなければならず、そのために、各指導医が受講すべき専門医維持に必要な教育研修講演を受講するなど、定期的な学習の機会を確保します。専門医維持に必要な記録を、プログラム統括責任者に提出し、プログラム統括責任者はその受講歴を保管し、サイトビジット等の際に第三者に提示できるように整理し保管する。

12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

① 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として別添資料の日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システム（作成中）を用いて整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価及び症例登録をweb入力で行います。日本整形外科学会非会員は、紙評価表を用います。（日本整形外科学会ホームページ参照）

② 人間性などの評価の方法

指導医は別添の研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表（資料10参照）を用いて患者・家族とのコミュニケーション、

スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

③ プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル（資料13）、②整形外科指導医マニュアル（資料12）、③専攻医取得単位報告書（資料9）、④専攻医評価表（資料10）、⑤指導医評価表（資料8）、⑥カリキュラム成績表（資料7）を用います。③、④、⑤、⑥は整形外科専門医管理システムを用いてweb入力することが可能です。日本整形外科学会非会員の場合、紙評価表、報告書を用います。

（日本整形外科学会ホームページ参照）

1) 専攻医研修マニュアル

日本整形外科学会が作成した整形外科専攻医研修カリキュラム（資料13）参照。自己評価と他者（指導医等）評価は、整形外科専門医管理システム（作成中）にある④専攻医評価表（資料10）、⑤指導医評価表（資料11）⑥カリキュラム成績表（資料7）を用いてweb入力します。

2) 指導者マニュアル

日本整形外科学会が作成した別添の整形外科指導医マニュアル（資料12）を参照。

3) 専攻医研修実績記録フォーマット

整形外科研修カリキュラム（資料7参照）の行動目標の自己評価、指導医評価及び経験すべき症例の登録は日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムを用いてwebフォームに入力します。非学会員は紙入力で行います。

4) 指導医による指導とフィードバックの記録

日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表、指導医評価表webフォームに入力することで記録されます。尚、非学会員は紙入力で行います。

5) 指導者研修計画（FD）の実施記録

指導医が、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講すると指導医に受講証明書が交付されます。指導医はその受講記録を整形外科専門研修プログラム管理委員会に提出し、同委員会はサイトビジットの時に提出できるようにします。受講記録は日本整形外科学会でも保存されます。

13. 専門研修プログラムの評価と改善

① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時（指導医交代時）毎に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

② 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

③ 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

14. 専攻医の採用と修了

① 採用方法

【応募資格】

初期臨床研修修了見込みの者であること。

【採用方法】

基幹施設である昭和大学整形外科学に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年7月頃より説明会などを複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『昭和大学整形外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出します。

申請書は

(1) 昭和大学医学部附属病院整形外科の website (URL <http://www10.showa-u.ac.jp/~orthoped/> もしくは、

<http://www.shouwa-fujigaoka-orthop.com/>)よりダウンロード

(2) 昭和大学整形外科に電話で問い合わせ (03-3784-8543)

(3) 昭和大学整形外科に e-mail で問い合わせ

(ma3234@med.showa-u.ac.jp)、のいずれの方法でも入手可能です。原則として 10 月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については 12 月の昭和大学整形外科学専門研修プログラム管理委員会において報告します。

選考に漏れた場合、一年後の申し込みに再度申し込みを行う事が出来ます。その間の処遇について選考委員会と相談することができます。

② 修了要件

- 1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- 2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
- 5) 1 回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

以上 1～5) の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。